学 位 論 文 要 旨

学位論文題目：

中国の大学におけるキャリア教育の展開に関する考察

申請者氏名：

張　任

1992 年、中国共産党第十四回全国代表大会の「社会主義市場経済体制の確立」という決定により、中国の経済体制は計画経済体制から市場経済体制に転換した。しかし、ここで述べられている中国における市場経済とは自由市場経済ではなく、社会主義体制下で発展した市場経済という社会主義市場経済である。国家政府のマクロコントロールを受けつつ、ミクロ経済の調整は市場に任せるというものであり、国家政府の存在及びコントロールが依然として大きいものである。この背景下の人材育成としての高等教育は、社会主義現代化の建設の手段として社会主義市場経済の発展に奉仕するものである。

一方、社会主義市場経済の転換によって教育体制の改革とともに、人材育成方式、卒業生の就職方式の大きな変革が起き、また、1990 年代の後半から深刻化した大卒者の就職難問題における求人側と求職側のミスマッチによって、大学のキャリア教育が大切になる。

本論文は中国の大学におけるキャリア教育の実態を概念分析と実態調査を通して考察した上で、自由市場経済の下で発展している日本の大学におけるキャリア教育と比較し、社会主義市場経済下の中国のキャリア教育にはどのような特徴があるかを検証するものである。

まず、キャリア教育の一般概念としてのキャリア教育＝職業教育＋進路指導によって、中国の職業指導教育はキャリア教育における進路指導を除いた職業教育の概念と近い。進路指導において人生観、人生の生き方の育成課題は素質教育の一部と該当する。そのため、中国の大学におけるキャリア教育を考える際には職業指導教育と素質教育の両方を含める必要がある。

次に、中国の大学の素質教育の焦点が、当初の人生観の育成を目指した全面性から起業家精神などの創新性へ、さらに社会における実践力を重視した社会性に変化してきた。その変遷がもとの学生の人生観、生き方の養成という面を弱くし、社会実践能力という職業指導教育に近いものになってきた。つまり、中国のキャリア教育のうち、学生の人生観と生き方の養成を担当していたはずの素質教育が、変遷の結果として、アメリカと日本のような進路指導の役割を担っていない。

中国の職業指導教育の実態について、筆者が 2014 年に実施したアンケート調査とインタビュー調査の結果によって、社会主義市場経済下で発展した中国の職業指導教育は国によるマクロの調整を受ける一方、市場によるミクロの経済活動、すなわち企業のニーズへ対応していないこと、学生個人のニーズへの認識も不十分であることを明らかにした。これらの論述によって中国の大学における職業指導教育の実践が、社会主義市場経済下で市場に任されたミクロの部分、つまり、企業と連携するなど、市場経済の多変性を把握する

必要性への認識が低く、国家によってコントロールされるマクロの部分、つまり、国家の指導に従っているかどうかのみを基準として発展している。

また前述した中国のキャリア教育は素質教育の一部と職業指導教育を合わせて考えるべきという点から見ると、素質教育は、変遷の結果、個人の人生価値の実現に重きを置いてはおらず、社会主義の社会発展に貢献する人材育成教育になっており、職業指導教育は、日本のキャリア教育における職業教育と似ていて、進路指導のうちの個人価値の実現がほとんど含まれないため、社会主義市場経済下で発展した中国のキャリア教育は、社会発展のための人材育成が主たる目的となっている。

また、社会主義市場経済の下で発展している中国の大学におけるキャリア教育の特徴と比較すると、自由市場経済の下で発展した日本の大学におけるキャリア教育は、アメリカのキャリア教育をそのまま導入しており、職業教育としての職業知識と職業スキルの育成以上に、進路指導としての人間形成と人生設計に注目して、個人価値の実現や、これからの人生形成がキャリア教育の核心である。日本の大学におけるキャリア教育に対する調査の結果、学生個人の人生価値の実現に注目することが一つの特徴である。さらに、「社会人基礎力の育成教育」に注目し、地域・産学連携を重視していることがもう一つの特徴である。その上、社会人基礎力育成教育もまた進路指導の一面が含まれることが明らかである。

以上の論述に基づいて、本研究の結論として、中国の大学におけるキャリア教育の特徴として以下のことが言える。まず、キャリア教育にとって、中国の社会主義市場経済体制が決定要素であること。次に社会主義市場経済は、社会主義という大きな枠内で市場経済を発展させる経済体制であるため、国からのマクロのコントロールが依然として強く、大学にはこのマクロのコントロールと市場に任されたミクロな面をつなぐ役割を担っているという認識が乏しいこと。そして、社会主義市場経済体制の下の教育は、社会主義の経済の現代化に奉仕することであり、人材育成の目的は国家的、社会的価値を実現することであり、キャリア教育にもそれが反映されているということである。

（様式９）

学位論文審査の概要と結果

報告番号	東アジア博 甲 第 99 号	氏　名	張　任
論文題目	中国の大学におけるキャリア教育の展開に関する考察		

（論文審査概要）

提出された論文は序章および終章を含めた全７章から成る。序章で本研究の問題の所在、本研究の学術上の意義および考察の手順が述べられたのち、第一章では中国の大学教育の中でキャリア教育の必要性が生じてきた背景として、経済政策の社会主義計画経済から社会主義市場経済への転換によって、大学におけるそれまでの人材育成の在り方が成り立たなくなったこと、よって学生の就職の在り方も変更を余儀なくされたこと、大学卒業者の就職難問題が生じたことの三つの面から論じている。また、政府の政策の中で使われた社会主義市場経済という概念が、経済のマクロ面は国家が統制しつつ、市場経済がもつ市場に対する柔軟な調整機能を利用して経済を活性化するというものであることを明らかにしている。

第二章ではまず、アメリカで誕生したキャリア教育が、単に職業（vocation）に就くための準備としての職業教育だけでなく、職業以外の社会における様々な仕事（work）を通していかに個人が人生の価値を実現していくかという、進路指導の面も含めた教育であることを明らかにしたのち、中国の大学におけるキャリア教育に近い概念として職業指導教育を取り上げ、それがキャリア教育のうちの職業教育を主としたものであり、最終的な目的は社会主義の近代化への貢献であって、個人の人生価値の実現という進路指導面が弱いこと、進路指導面は本来素質教育に含まれるものであることを論じている。それに対して、アメリカからキャリア教育の概念を導入した日本では、キャリア教育の主たる目的は個人の人生価値の実現に置かれており、進路指導面が重視されていることを指摘している。

第三章ではキャリア教育の視点から中国の大学における素質教育政策を考察し、大学における素質教育は全面性、創造性、社会性とその育成する能力の重点が変化し、それによって個人の全面性の発達という進路指導面よりも社会における実践力という、より職業指導教育に近いものとなってきており、進路指導の側面を果たせていないと論じている。

第四章では中国のキャリア教育の実態を、北京所在の８大学を対象とした先行研究および北京以外の３大学を対象として張氏自身が実施した質問紙およびインタビュー調査に基づいて考察し、各大学のキャリア教育は政府からの政策に従うことを念頭に行われており、企業や学生からのニーズに対応する観点が欠けているため、政策と市場ニーズをつなぐ役割と個人への進路指導の役割が果たせていないことを明らかにしている。

第五章では日本の大学におけるキャリア教育を２大学でのインタビューおよび１大学での質問紙調査、さらに経済産業省による「社会人基礎力を育成する授業 30 選」の事例に基づいて論じている。これらの事例から、日本の大学のキャリア教育では学生個人への進路指導と企業ニーズへの対応が重視されていること、学生自身も進路指導の意義を実感していること、職業教育を主とした社会人基礎力育成においても進路指導の要素が含まれていることを示している。

結論として終章では、中国の大学におけるキャリア教育は、社会主義市場経済のニーズに応ずるべく政府、人材市場、大学の３者の連携の重要性を認識するとともに、職業教育がキャリア教育に発展してきた背景である、若者個人の人生価値の実現という学生個人に対応する視点も取り入れてこそ、キャリア教育としての役割を果たせるようになると述べている。

本論文は先行研究の乏しい中、張氏自身が現実の問題の中から研究科題と論点を見出して検証しており、創造性の点においては達成できている。

また、その検証にあたっては、政策分析、大学の教育課程の分析、大学での実態調査によって一貫性のある論証を行って結論を導いており、論理性の点においては達成できている。

中国の大学キャリア教育に関する先行研究が理論面に偏り、根拠に乏しいものが多いことを確認したうえで、その中で参考に値する研究を見出し、張氏の研究の視点から再検討を加えている点、また、事例が北京に偏っていた先行研究の欠点修正し、さらに新たに出された政策の影響を検証すべく、張氏自身も調査を行っている点など、厳格性の点においては達成できている。

本研究の時点では中国の大学キャリア教育はまだ就職方式の転換に十分対応しているとはいえず、発展途上の段階にあった。張氏は中国と日本の学生へのアンケート調査から、進路指導の要素を取り入れたキャリア教育の必要性を唱えている。今後の中国の大学キャリア教育の展開においてこの要素がどのように取り入れられていくか、また現在の大学院進学熱が大学における不十分な進路指導とどのように関係しているかなど、本研究には発展の可能性があり、発展性の点においては達成できている。

以上、審査委員会における審査委員の合議によって、本論文に対する全体の評価は「達成できている。」とし、論文審査結果を「合」とする。

論文審査結果
合・否

審査委員　主　査　（氏 名）石井　由理

（氏 名）吉村　誠

（氏 名）福田　隆眞

（氏 名）林下　淑

（氏 名）　　㊞